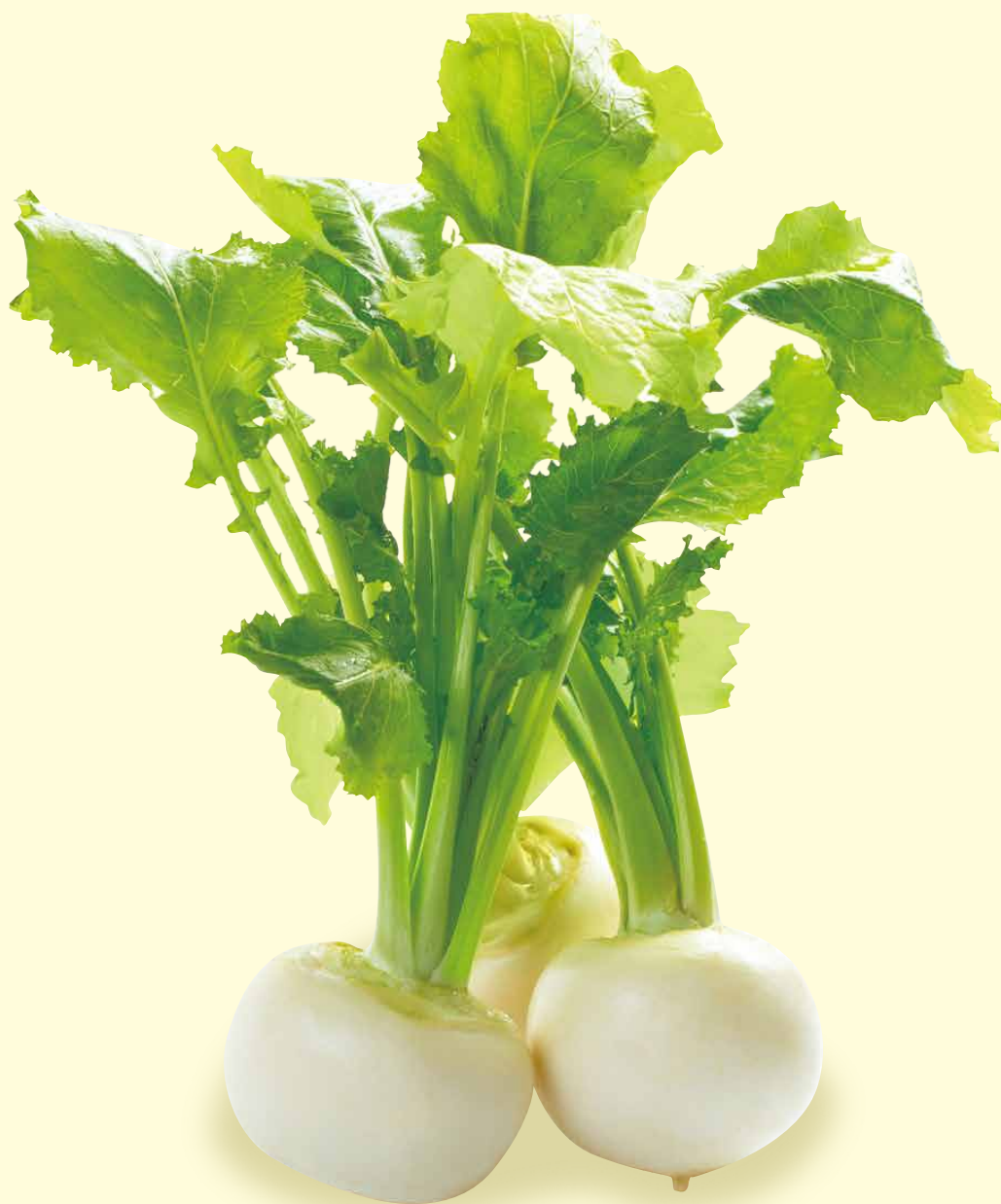


JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y



2面

**折原会長が
JA石川県中央会を訪問**
(広報・調査部)

2面

**“全国初”の青果物
集出荷センター竣工式**
(栃木県本部)

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

News!



折原会長がJA石川県中央会を訪問

復旧・復興に向け全農グループ一丸となって支援

広報・調査部

西沢会長(右)と面会する折原会長



全農の折原敬一経営管理委員会会長は2月7日、能登半島地震で被災したJA石川県中央会を訪問しました。現地での支援活動や復旧状況について、同中央会の西沢耕一会長との面会を通じて詳細に説明を受けました。

被災地ではいまだ厳しい状況が続いており、被害の全容が把握できていない状況であることが西沢会長から伝えられました。震災直後には、組合員や職員の安否確認にも時間がかかったこと、被災した職員もJA-SSに出勤して業務を行ったことなどの説明があり、今後現場からの要望を最優先に対応を行っていくことが伝えられました。折原会長は13年前の東日本大震災の経験を踏まえながら、「被災された方々に心からお見舞い申し上げます。被災地の復旧・復興にむけて、全農グループ一丸となり全力で支援していきたい」と述べました。

全農は1月1日に、被害状況を把握するとともに必要な対策を迅速かつ的確に実施するため災害対策本部を設置しました。引き続き、被災者の皆さまに寄り添い、復旧・復興に向けた支援を行っていきます。

News!



“全国初”の青果物集出荷センター竣工式

5JAの集荷・販売・物流を一元管理、生産者の負担軽減・所得向上へ

栃木県本部



竣工式では関係者によるテープカットも行われた

センターの外観
(手前：パッケージ棟
奥：選果棟)



竣工式にはJA・行政・工事関係者ら約50人が出席し、完成を祝いました。同センターは約5万平方メートルの敷地面積に、主にイチゴ・ナス・アスパラガスを扱うパッケージ棟と、主にトマト・梨を扱う選果棟を設置。さらにこの5品目以外の青果物も扱う集荷場も整備し、県内5つのJAが共同利用する「集出荷」「選果」「包装

加工」の機能を具備した大型施設となります。同センターは、これまで各JAが個別に対応していた集荷・販売・物流を一元管理することで、選果・パック詰めなどの生産者の出荷労力の軽減、販売力と「産地とちぎ」ブランド力の強化、配送効率の向上、出荷資材統一によるコスト低減、施設集約による管理コスト削減、高品質な青果物の安定供給を図ります。

同センターを「核」に、JAグループ栃木の総合力と組織力を結集し、「生産者手取りの最大化」と「生産基盤の維持・拡大」を実現していきます。

栃木県本部は1月31日、複数JAが共同利用し複数品目を扱う青果物の集出荷施設としては「全国初」となる「JA全農とちぎ青果物広域集出荷センター」の竣工式を行いました。3月1日より本格稼働します。



仙台市の専門学校で和牛特別講座

岩手県本部職員が和牛の定義・流通・評価・食味など伝える

全農東北プロジェクト



肉の調理に必要な知識を学ぶ専門学校の学生

将来、食に関わる職業に就く学生の学びの機会を作り、全農の取り組み「食の安全・安心」を伝えるため、岩手県本部畜産酪農部の泉田壮祐職員を講師に講座を開催しました。和牛の定義、生体から枝肉、部分肉への作業工程と産地のルール、牛トレーサビリティなどの国内流通の仕組み、牛肉の格付けの細かい判定基準などを説明しました。

学生は普段の授業では得ることのできない情報をメモしながら活発に質問。岩手県産の黒毛和牛、交雑牛、短角牛の牛種と部位による食感や食味の違いを知るため、計5種類の食べ比べも行いました。

全農東北プロジェクトは1月15日、仙台市の仙台スイーツ&カフェ専門学校で和牛特別講座を開催し、8人の学生が和牛に関する基礎知識を学びました。



JA・子会社向けに資産管理事業研修会

空き家対策や相続登記の義務化などを講義

神奈川県本部



開会あいさつを行う塚越会長

同連絡会は資産管理事業の情報交換や相互連携を目的に活動しています。当日は、講師に(株)ダイタクの児玉有加子代表取締役を招き、空き家対策や4月1日に施行される相続登記の義務化など実例を交えて講義を行いました。

同連絡会の塚越章会長(さがみ協同開発(株)常務取締役)は「建築資材の高騰など厳しい事業環境が続いていますが、年度末に向けて各社の事業計画の達成がされるよう、今日の研修内容も生かしていただければと思います」と呼びかけました。

神奈川県本部が事務局を務める神奈川県農協・農協子会社資産管理事業連絡会は1月25日、第2回役職員研修会を開催し、県内JA・子会社の役職員ら48人が参加しました。



次世代リーダー育成へ 最終発表会開催

新規事業創発プロセスを通じて系統間の連携強化

AgVentureLab



全農・家の光協会・静岡県信連の職員合同チームで検討した事業案の発表

JAグループ全国連、信連やJA電算センターなどから15人が参加。『スーツ禁止』のいつもと違う環境の中、他組織のメンバーで構成されたチームで検討した新規事業案を発表しました。

発表会では、全農の安田忠孝代表理事専務、戸井和久チーフオフィサーほか各連来賓の審査により、「JAのみらいを創るで賞」が決定。また、(株)パソナグループ役員の塩谷愛さん、あぐらボの荻野浩輝理事長、来賓、受講生による対話型セッション「JAのみらいを考えるためのヒントを探す」も実施しました。

AgVentureLab(あぐらボ)は、2023年11月から24年1月まで計7回、新規事業創発プロセスを通じて系統間の連携強化を目指す次世代リーダー育成プログラムJA Innovators Boot Campを開催し、最終発表会を1月26日に行いました。

News!



JR山形駅に大型タペストリー設置

「適正価格にご理解を」県内外の消費者に広くアピール

山形県本部



JR山形駅に設置された大型タペストリー

山形県本部は1月4日、農畜産物の適正な販売価格形成を訴えるため、JR山形駅に大型タペストリーを設置しました。サイズは縦4・5メートル、横3メートルで、2024年12月末まで掲示予定です。

旅行者や通勤・通学などで利用者が多いJR山形駅に掲示することで、消費者理解を促し、生産者を応援しようと企画しました。

3月1日からは、持続可能な開発目標（SDGs）の視点から生産コストを考慮した価格形成を訴えるデザインも同じサイズで掲示します。

山形県本部では今年度、「適正価格にご理解を。食べて笑顔！作って笑顔！」をキャッチフレーズに、山形花笠まつりのパレードや駐車場ビルでの横断幕掲示などで適正な販売価格形成の重要性を継続的にアピールしてきました。今後も消費者の理解醸成に取り組んでいきます。

News!



水稻肥料農薬予約をWEBで受注

受発注から配送・決済まで一元管理し業務効率化

岡山県本部



システムの導入に伴い業務効率化を目指す

岡山県本部ではJA晴れの国岡山と連携し、全農受発注センターシステムの活用により組合員の利便性向上と本会・JA相互の受発注作業効率化に取り組んでいます。

JA晴れの国岡山では、水稻肥料農薬予約注文時の受発注事務や配送業務の効率化を目的に、全農受発注センターシステムの「組合員からのWEB受注」と「モバイル受注」機能を2023年10月から導入しています。

導入後、受発注から配送、決済までJA全地区の一元管理を短期で実現し2460件を受注しました。WEBで受注した予約注文分は全農農家戸配送システムとデータ連携・配送委託をすることでJAの労力削減につながります。さらにJAでは業務効率化を進めることで出向く体制の強化を目指します。

News!



イオンモール高崎で県産フェス

消費者へ群馬県産の野菜や加工品などをPR

群馬県本部



会場に登場した（左から）きのか振興協議会「キノッピー」とJA邑楽館林の「でんえんまる」

群馬県本部は12月16、17日、イオンモール高崎で「おいしいフェス！〜群馬のおいしい魅力を伝えよう〜」はイオンモール高崎、イオンリテール（株）、JAグループ群馬が協働するイベントで、県内6JAや群馬県きのこ振興協議会が参加。各JAは野菜や加工品などの販売を実施しました。

イオンモール高崎で開催した「おいしいフェス！〜群馬のおいしい魅力を伝えよう〜」はイオンモール高崎、イオンリテール（株）、JAグループ群馬が協働するイベントで、県内6JAや群馬県きのこ振興協議会が参加。各JAは野菜や加工品などの販売を実施しました。

イオンモール高崎内のスーパーでは、県産の牛肉や下仁田ネギ、しらたきなど「オールぐんま」で作るすき焼きの販売コーナーが設けられ、訪れた方々に地元農産物の魅力を発信しました。

令和5年度 全農の主な取り組み「第3回」

令和5年度の全農の主な取り組みを紹介します(全5回)。

畜産総合対策部

「和牛をたべよう!」合言葉に消費喚起キャンペーンを展開

物価上昇などの影響を受け、高級品のイメージが強い和牛の需要が縮小しています。さらに、生産コストの高止まりが肉牛生産者の経営を直撃し、とりわけ繁殖経営は深刻な状況です。

そこで全農は、2023年11月より「ちよつとい



なかやまさんに君の和牛応援団長任命式

い日に和牛をたべよう!」を合言葉に消費喚起キャンペーンを展開。なかやまさんに君(敬称略)を和牛応援団長に任命し、メディア向けイベントの開催やエコープなどの量販店におけるプレゼント企画の実施、直営外食店舗での和牛を使用したメニューの展開、JAタウン特設サイトでの販売、ラジオ・新聞広告による理解醸成・広報活動などを実施しました。

今後もさまざまな企画を通して、和牛を「もっと身近に」食べてもらえるよう、グループだけでなく食肉業界を挙げて取り組んでいきます。

畜産生産部

環境保全型飼料の普及 ふん尿処理コストを削減

生産者にとって、家畜から出るふん処理は大きな経営課題の一つですが、全農グループではふん量を低減する環境保全型飼料の普及を図っています。

(2021年5月特許取得済)を開発。年間約19万ト(全農が供給する採卵鶏飼料の約11%)まで普及しています。

環境問題への対策に加えて、堆肥処理コストを削減する効果が期待できます。

さらに、ふん量を20%、ふん尿中に排せつされる窒素を20%低減する豚用配合飼料「eフィード」(23年5月特許取得済)も開発。23年度は全農が供給する養豚配合飼料の8%に相当する12万トの出荷を見込んでいます。

採卵鶏飼料ではふん量を20%以上低減する機能性飼料「UNKシリーズ」

を開発。23年度は全農が供給する養豚配合飼料の8%に相当する12万トの出荷を見込んでいます。



ふん量を低減する環境保全型飼料を開発

今後、ふん処理に課題がある生産者に継続的に推進を行います。

酪農部

生産者の所得拡大へ 需要拡大や牛乳の販売強化

全農は生産者所得の拡大に向け、日々生乳の需給調整を実施し安定供給に努めるとともに在庫過剰の脱脂粉乳の需要拡大や業務用牛乳の販売強化に取り組んでいます。

また、飲用需要の維持・拡大を進めるべく、協同乳業(株)と連携した「農協ミルク」の販売など、農協シリーズの販売の二環としての実施や「ファミリーマート」なども食堂との連携など、消費者へ酪農の魅力伝える新しい理解醸成に挑戦しています。



6月の牛乳月間に新宿で開催した飲み比べイベントは大盛況



1月29日に発売した農協ミルクシリーズ第6弾「農協ミルク宇治抹茶」

ニッポンエールご当地グミ 総選挙を開催中

「よしもと住みます芸人」と初コラボ企画

全農と全国農協食品(株)は、2月19日～3月10日の間、ニッポンエールグミの47都道府県人気ベスト10を選出する「ニッポンエール全国ご当地グミ総選挙2024」を開催します。 【全国農協食品(株)・営業開発部】

本イベントは、「あなたの一票が日本にエールを届ける!」をテーマに、日本に元気と笑顔をお届けする、全農の商品ブランド「ニッポンエール」と「よしもと住みます芸人」プロジェクトの初コラボ企画です。

特設サイト上にはノミネートされた47都道府県を代表する各1種類のニッポンエールグミを掲載し、消費者の皆さんの投票により人気ベスト10を選出します。

また、47都道府県の「よしもと住みます芸人」をアンバ

サダー「ニッポンエールご当地グミ推します芸人(グミます芸人)」に起用し、全国の産地にエールを届けます。

全国ご当地グミ総選挙期間中は、お1人様1日1回投票が可能で、投票された方の中から抽選で、JAタウンギフトカードやご当地グミセットをプレゼントします。

今後もニッポンエールの取り組みを通じて、産地や国産農畜産物の知名度向上を図り、さらなる消費拡大につなげていきます。

プレゼント内容

ニッポンエールとよしもと住みます芸人との初コラボ企画「ニッポンエール全国ご当地グミ総選挙2024」

A賞



抽選で20名様

JAタウンギフトカード 10,000円分

B賞



抽選で20名様

47都道府県 ノミネート 全国ご当地グミセット 8,000円相当

C賞



抽選で50名様

ニッポンエール お菓子詰め合わせ 2,000円相当

推しグミ投票・プレゼント
キャンペーンへの応募は
こちらから



JAタウン「ニッポンエール
ショップ」では、「全国ご当地
グミノミネート商品コンプ
リートBOX」を発売中です。





ブロッコリー収穫体験の参加者ら



収穫したブロッコリー

園芸作物は県内有数
「春にんじん」全国1位

J A板野郡は徳島県の北
東部にあり、日本有数の河川

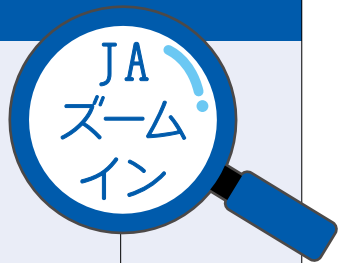
である吉野川中下流域北岸
に位置しています。管内は吉
野川の豊かな水資源と沖積
土壌を中心とする立地条件、
さらに瀬戸内の温暖な気候
を生かし、ニンジン・ブロッ
コリー・レタスなどの園芸作
物を主体とする県内有数の
農業生産地帯です。特に「春
にんじん」は全国1位の産地
を誇っています。

経営基盤のさらなる安定

22年4月から准組合員10
人を「広報モニター」に委嘱
し、収穫体験などを通じた農
業に対する理解を深めるとと
もに、J Aの広報誌やイベン
トに対する率直な意見をいた
だき、活動の参考にしていま
す。

広報モニターを委嘱 ブロッコリー収穫体験も

により、組合員と利用者が期
待するサービスの提供を可能
とするため、2024年4月
に県内9 J Aが合併し、「徳
島県農業協同組合」が発足し
ます。地域密着の組合員第一
主義を掲げ、これまで以上に
組合員の皆さまのもとへ足を
運び、ご意見やご要望を伺い、
新たな事業展開に反映してい
きます。



「広報モニター」で農業理解

24年度から「J A徳島県」へ

J A板野郡 (徳島県)



概要		2023年3月31日現在
正組合員数		7747人
准組合員数		4329人
職員数		200人
販売品取扱高		75億2千万円
購買品取扱高		25億6千万円
貯金残高		1249億5千万円
長期共済保有高		2769億円
主な農産物	ニンジン、ブロッコリー、 レタス、レンコン	



収穫方法を説明するJA職員

広報モニター活動の一環と
して、23年12月に「ブロッ
コリー収穫体験」を
開催しました。広報
モニターの方だけ
でなく、組合員と
その家族にも募集
をかけ当日は20人
が参加しました。多
くの参加者は、ブ
ロッコリーの収穫

が初めてだったため、J A職
員から収穫方法の説明を受
け、約1時間収穫しました。
子どもたちは「大きいの採れ
た」「僕のブロッコリーの方が
大きい」と笑顔で楽しそうに
収穫していました。

今回の活動は、農業の楽し
さや大変さを感じてもらい、
農業に対する理解を深めて
いただく良い機会となりまし
た。合併後もさまざまな活動
を行っていきます。

JA板野郡組合員限定企画
**ブロッコリー
収穫体験**
開催日 12月の日曜日

【日程が決まり次第、申込みいただいた方にお電話にてご連絡いたします】
集合 9:30 解散 11:00
集合場所 上板支店（予定）
収穫場所 上板支店付近の畑（予定）
服装 ジャージなど汚れてもいい服装
対象 組合員新規加入者・既存の組合員
ご家族に組合員がいれば、お子様も参加OK
※収穫したブロッコリーはお持ち帰りいただけます。
※集合場所・収穫場所は変更になる場合があります。
※天候により集合場所や電話にてご連絡いたします。

先着20組限定
JA板野郡本店総務部
TEL: 089-894-7200
FAX: 089-894-7201
※電話・FAX・メール受付のみOK！

収穫体験申込書
お名前 _____ 参加人数 _____ 名
ご住所 _____
お電話番号 _____

お申込期限
11月22日まで

※申込みいただいた個人情報は農業の発展に役立ちます。

企画したブロッコリー収穫体験

イチゴ「みおしずく」でスイーツ 滋賀県産農産物のブランド化へ2商品

滋賀県本部は1月22日、滋賀県初のブランドイチゴ「みおしずく」などの滋賀県産原料を使用したスイーツを開発し、商品発表会を滋賀県庁で開催しました。【滋賀県本部】

「みおしずく」は、適度な酸味で際立つさわやかな甘み、フローラルな香りが特徴で、試験販売を含め6年の歳月をかけ今年度から本格的な販売を開始しました。

今回完成したスイーツは2商品。「みおしずく」の他に滋賀県産「びわほなみ」の小麦粉や、県産の大納言小豆を使用した粒あん、甲賀市産朝宮茶など6種類の100%県

産素材だけで作った「滋賀どら」と、「みおしずく」のいちごソースとフリーズドライの粉末をぜいたくに使用し、素材の香りと酸味を生かしたチーズスフレ「近江いちごスフレ」です。

県本部は今後もこのような取り組みを通じて、生産者の生産意欲向上と、消費者への県産農産物の理解促進につなげていきます。



新商品を紹介する山田保県本部長(中)と「滋賀どら」を製造するKYOIEIDOカンパニー(株)樋口展生社長(左)、「近江いちごスフレ」を製造する(株)パレット前田省三社長(右)



「みおしずく」など県産素材100%で作った「滋賀どら」

令和5年度農産物直売所創意工夫陳列キャンペーン

最優秀賞にJA東京むさし・JA福山市

全農は、「令和5年度農産物直売所創意工夫陳列キャンペーン」を開催しました。令和5年度は、農産物直売所の売り場活性化とエコープマーク品の販売強化を目的に「催事部門」と「農産物関連陳列部門」の2部門で募集を行いました。【くらし支援部】



催事部門最優秀賞のJA東京むさし「小平ファーマーズ・マーケット」



農産物関連陳列部門最優秀賞のJA福山市「FUKUYAMAふくふく市」

催事部門では、テーマ設定に忠実かつ華やかな陳列が印象的な「小平ファーマーズ・マーケット(JA東京むさし/東京都)」が最優秀賞に選ばれました。農産物関連陳列部門では、米の消費拡大を目的に新米とエコープマーク品の

関連陳列を行った「FUKUYAMAふくふく市(JA福山市/広島県)」が最優秀賞に選ばれました。

全農は、今後も農産物直売所の活性化に向けた取り組みを進めます。



滋賀・近江・琵琶湖へ“きてかへな”

「近江牛」は、日本三大銘柄牛の一つで「豊かな自然環境と水に恵まれた滋賀県内で最も長く飼育された黒毛和牛種」のことを指します。

琵琶湖をはじめ豊かな自然環境の中で、長年培った優れた技術と愛情を込めて育てられた近江牛は肉質の霜降り度合いが高く、特有の香りと柔らかさが特徴です。

こちらの商品はすき焼き用の近江牛と割り下に加え、近江八幡名物の赤こんにゃくと子麩が入ったセットです。野菜などお好きな具材を追加してオリジナルのすき焼きをお楽しみください。



冷蔵 近江牛すき焼きセット……7980円(税込み)

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☐ shop@ja-town1.com